

タキミシダ シシラン科
Antrophyum obovatum Baker

鳥取県：絶滅危惧I類(CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類(EN)



鳥取県内 2008.5.3/撮影：永松 大

■**選定理由**：県内では1カ所でのみ自生確認。園芸用の採取圧や自生地の破壊により減少し、残る1カ所の個体数も希少。

■**特徴**：やや陰湿な溪流沿いの岩場に着生する常緑性の小型シダ植物。根茎は短く、葉を叢生する。葉は倒卵形で厚皮質、全縁で特徴的な形態。葉脈は網目状。1950年代には鳥取市青谷町の民家古井戸内壁に自生が知られていたが、井戸の崩壊により絶滅した。初版の調査時まで県内では絶滅したと考えられていた。現存の個体数は10株ほど。

■**分布** 県内：非公開。 県外：本州（関東以西）、四国、九州。東南アジア。

■**保護上の留意点**：盗掘の可能性が非常に高いため、自生地の公表禁止。 厳重な採取禁止。水が滴る陰湿な環境の保全。

■**特記事項**：国立・国定公園採取禁止指定種、鳥取県条例採取禁止指定種

■**文献**：54。

執筆者：永松 大